

冬山・雪山シリーズ 安達太良山

日程：2015年 12月 12-13日

メンバー：4名（F、A、J、M）

報告：M



日が暮れゆく、くろがね小屋

東北道を郡山から初めて北上したのはどれほど前だったのだろう。西にゆったり優美に裾野を拡げるその山が、安達太良山とわかり、高村智恵子のほんとの空のある山、田部井淳子さんが親しんだ故郷の山というフレーズが浮かんだ。登ってみたいなと思いながら、そのときは錦秋の吾妻山から裏磐梯に向かった。

時は経ち 2015年 12月、歴史的な暖冬でどこも雪不足が心配されるなか、山のエキスパートのお二人に、雪山は滑り降りるのもお得意というJさん、そして寒がりのくせに雪山好きの私という4人のメンバーで、福島の名峰を目指すことになった。登山数日前の山小屋の情報によれば、小屋前で積雪1m。雪はあるところにはあるのだと嬉しい驚き。



雪不足のスキー場の端を上り始める

土曜日の朝、高田馬場駅前に集合し、Fさんのお車で陽光あたたかな日射しを受け北へ。二本松ICを下り、岳温泉から登山口となる、あだたら高原スキー場まで車を進めると道の傍らに雪が見え始める。しかし本日オープンというスキー場の駐車場は一面砂利。ここから標高差400mのくろがね小屋に1mも積雪があるのがにわかに信じがたい。

しかし、人気のないスキー場脇から、林の中の登山道を歩き始めると雪道があらわれる。せっかく持ってきたのだから練習をと、持参のスノーシュー・ワカンを履いてジグザグの馬車道を登る。師走半ばの東北の山というのに、目映い光、シャ



スノーシュー



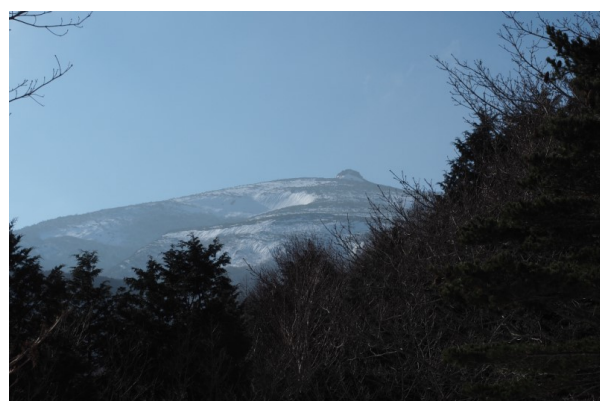
勢至平から望む安達太良山の峰々

私たちも、奥のテーブルで二本松のスーパーで仕入れた刺身・酢の物等、持ち寄った酒肴で、山の忘年会のスタートである。今宵のメインは、豚野菜豆乳鍋、今回もネギはザックに挿してきた。ふと見渡すと小屋の壁には、ヨーロッパアルプス三大北壁の写真もかけられている。自然と話題は、挑んできた海外の大きい山から憧れの山に及び、気宇壮大なチャレンジしてみたい山へと話の花が大きくなってゆく。ご馳走になった地酒の酔いも手伝い、つい私も「K2」なんて言ってみたら大先輩に多いに激励された。酔い覚ましがてら雪の上に横たわってふたご座流星群の流れ星を幾つか見つけた後は、抜群にあたたまる温泉に再び浸かって、消灯とともに眠りにつく。

ツ1枚でも汗ばむ陽気に柔らかな雪から熊笹が顔を出す様はまさしく春山登山のよう。

息を弾ませあがってきた勢至平から望む安達太良の山塊は、遠望するたおやかな姿とはまるで違って、様々な形のピークが不規則にならぶ。山の造形作家が、試行錯誤している製作現場であるかのような空間だった。小屋までは谷間の広い道。途中溶岩大地の名残の岩や温泉の吹き出し口を見ながらゆっくり歩けば、15時頃に、忘年山行者で賑わうくろがね小屋に着く。

黒岳登山口からはコースタイムで2時間、硫黄泉あり、カセットコンロ・土鍋レンタルありというくろがね小屋は、忘年宴会山行にはまさにうってつけの目的地であったろう。小屋前に冷やされている缶・瓶の数・バラエティーもかつて山で目にしたことのないものだった。巨大鍋を擁する10人以上の大パーティー2組以外にも、銘々運び上げた豊富な食材・お酒とともに、一年の締めくくりを山の仲間たちと過ごす登山客で小屋は満員。はしゃいで過ごす大人たちの幸福感に小屋はあふれかえっていた。



乳首山と呼ばれる山頂



カール状の地形を登る



ひだ模様が見事な大雪面

翌朝の冷えも緩やか。天候は下り坂との予報だったが、ちぎれ雲が少し浮かぶ空は青い。小屋前からアイゼンをつけ、大きなカール状の斜面を詰め稜線を目指す。右手に厳しく迫る鉄山の大岩壁を眺めながら高度をあげると、二本松の町越しにゆるやかな山並みの重なりがひろがる様が見渡せ、関東や中部の山からの景色とは違う東北らしいおおらかさを感じさせてくれる。強風で知られる安達太良山であるが、幸い今日は、風の通り道の峰の辻でもほぼ無風。しかし雪の斜面一面に深く刻まれる風紋はこの山を渡る風の威力を物語っていた。1,700mの山頂に迫るころには、黒い雲も増え天候悪化の兆しが濃くなってきた。それでも乳首山の愛称の由来である岩塊の山頂からは、安達太良山を構成する、火山由来の複雑な形のピークの数々、磐梯山、猪苗代湖をはじめとして、朝日岳、蔵王なども遠望できた。



風紋



急斜面の登り



光が降り注ぐ

迫りくる悪天の気配に、行動食を食べ早々に下山開始。しかし今回の山行の正念場は、ここからであった。

馬の背の分岐までの広い稜線はホワイトアウトになると道迷いしやすいので要注意とは教えていただいたが、我々を待ち受けていた試練はそれではなかった。連日の暖かさで緩んだ雪に始終足をとられるのである。何度も太腿まで嵌り込みもがきつつ、高度を下げるにつれ上がる気温に汗をかきつつの下山となった。途中薬師岳展望台では、五葉松平から勢至平への展望が開け、「このうえの空がほんとの空です」の碑が建つ。あいにくと今日のほんとの空は重い曇り空だったが、数年前の10月に紅葉見物に来たときは、快晴の空の下は極彩色の紅葉で埋め尽くされていたことを思い出す。



この上の空がほんとの空です
by 高村 光太郎「智恵子抄」



(参考) 数年前の紅葉

冬山・雪山シリーズ山行というハードな名称には似合わぬ春山気分の二日間であったが、登ってみてはじめて安達太良山が、想像していたのはまた違う多彩な魅力にあふれる山であることを知ることができた。この機会を実現させてくださったFさん、Aさん、Jさんに御礼を申し上げたい。

下山後岳温泉で汗を流した後は、ご当地名物のボリュームたっぷりのソーツカツ丼に温泉卵をつけて充実の山行を締めくくった。店を出たところで降りだした雨はやがて大雨となった。

<コースタイム>

初日 11:50 駐車場出発 → 11:55 スキー場入口 → 12:35 スノーシュー出発 → 14:10 勢至平 → 15:10 くろがね小屋着

2日目 7:50 くろがね小屋出発 → 8:40 峰の辻 → 9:25 山頂着 → 9:35 下山開始 → 10:15 仙女平分岐 → 11:00 薬師岳 → 11:30 五葉松平 → 12:15 駐車場着